



# 西部教育局からのお役立ち情報

## 今月のトピック紹介版

6月号



### 小・中学校国語

#### 平成30年度全国学力・学習状況調査の出題から見える指導のポイント

本年度の全国学力・学習状況調査、国語科の問題では「文章構成の工夫」について考えたり、本文には答えが記載されていない「筆者の意図」を読み取ったりする問題が小中学校を問わず出題されました。「文章構成の工夫」について読み取り考えることは、子供たち自らが説明文や意見文として表現することにつながります。今、求められる発達段階に応じた指導の在り方について確認をお願いします。

#### めあて一まとめ・振り返りの徹底化 全員が主役になる授業づくり①

5月10日、文部科学省笠井健一教科調査官（算数科）をお招きし、研究主任等情報交換会を開催しました。調査官からは「本時で子供に何ができるようになったのか、ここが一番大切」とのお言葉を頂き、改めてゴールを明確にした指導（めあて一まとめ・振り返り）が大切であると感じました。本号では、本年度の算数科A問題を取り上げ、全ての子供に学力を身に付ける指導の在り方について紹介しています。授業後半部分の指導改善にお役立てください。

#### 全ての子供にとって、居心地のよい学校づくり 休み始めの速やかな対応で、新たな不登校を防ぐ

昨年度の不登校を「継続・新規」で分類すると、「新規」不登校の割合が高くなっていることが分かります。本年度も「未然防止」と「初期対応」を軸に取り組を進めていくことが大切であると認識しています。本資料では、休み始めに着目し、その対応について考えています。学校体制の見直し等に生かしていただければと思います。

#### 特別支援教育ほっと通信

子供自身が主体的に物事を考えて行動することが「読み取る力」の基盤になると言われています。そこで、本号では、聴覚障がい教育で長年大切にされている「読みの基本12項目」が参考になると思い、紹介します。「文章の内容や行間を読み取るのが難しい」「情景を想像することに困難さを感じている」といった子供への支援の一つとしてお役立てください。

今年度は、小・中学校ともに文章構成の工夫について考える問題が多く出題されました。  
【例】のように、文章構成の工夫が読者に与える効果や、筆者の意図などが問われています。

- 【例】○筆者はなぜ冒頭にこの文を挿入したのか  
○筆者はなぜ2段落と3段落の順番を入れ替えたのか  
○筆者はなぜ最初の一文を会話文にしたのか  
○引用を用いた場合の効果について説明しなさい

本文に答えが書いてないため、内容の読み取りができるだけでは解けません。日頃から、相手意識、目的意識をもって「話す・聞く」「書く」「読む」等ができていますかが問われています。



構成を工夫することによって読み手や聞き手により分かりやすく伝えることができるといふ経験や知識を、全ての学年で積み上げていくことが大切です。



- 1 疑問を提示し、読者が興味をもつて読めるようにするため。  
② 自分が伝えたいことを述べ、読者の理解を助けるため。  
3 具体的な例を多く挙げ、読者に納得してもらうため。  
4 自分の経験を述べ、読者の経験と比べて考えてもらうため。

選択肢

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このような名前がついています。おうちの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニューとしておすすめします。  
【星野さんの文章より】

小学校国語B設問二の一

これは、「星野さん」が、「かみかみあえ」をおすすめする文章の最初の部分を次のように書いた理由を考える問題です。



各学年の発達段階に応じた指導方法を工夫しましょう

【小・中学年】段落相互の関係に着目する

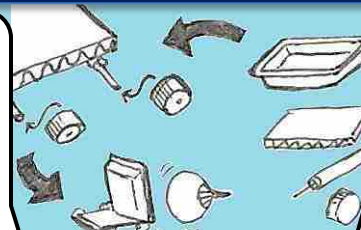
- ① 話題提起
- ② 問1
- ③ 実験
- ④ 問1の答え
- ⑤ 問2
- ⑥ 観察
- ⑦ 問2の答え
- ⑧ 問3

Bさんの説明文は、問1の段落と答えの段落の間に実験や観察の結果を入れてあるから、答えだけ書いてあるより納得できるな。



【小・低学年】順序の工夫に着目する

読み手が実際につくったり遊んだりするときと同じ順序になるように工夫されているんだね。



Aさんはヨットカーについて「材料」↓「作り方」↓「遊び方」の順序で紹介しているね。



【中学校】根拠の示し方に着目する

同じテーマの意見文を比較して...

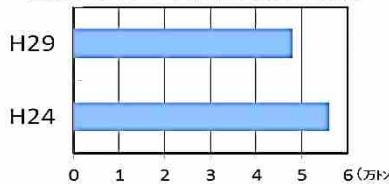
Dさんは、自分の経験を述べて、読者の経験と比べて考えてもらいたいんじゃないかな。



同じテーマの意見文でもCさんの根拠はアンケート結果、Dさんの根拠は自分の経験だね。

【小・高学年】引用文や図表等の効果に着目する

西部市の1年間のごみの量



「リサイクルをしよう」と呼びかける理由を明確にするために、ごみの分別を導くための量と後のごみの量を比較するグラフを効果的に取り入れているんだね。



構成の工夫について読み取ったり考えたりしたことについては「筆者の工夫辞典」等にまとめ、次の学年へと積みあげていくと同時に、子供たちが自分で説明文や意見文を書く際に参考にするなどの学習活動を取り入れることが大切です。

# —全員が主役になる授業づくり①—

5月10日に笠井調査官をお招きして、西部地区の課題に対する方策を話し合う協議や講演会を開催しました。その中で、身に付けるべき力をどう定着につなげていくか、授業後半を充実させる具体的な手立てについて御指導いただきました。今月は、今年度の全国学力・学習状況調査 算数Aの問題を例に一人一人が図を書けるようにするための手立てについて考えてみたいと思います。

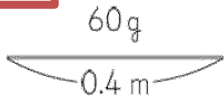
## <笠井調査官より>

ポイント1 説明する力を付けるためには、子供自ら図がかけられるようになることが大切

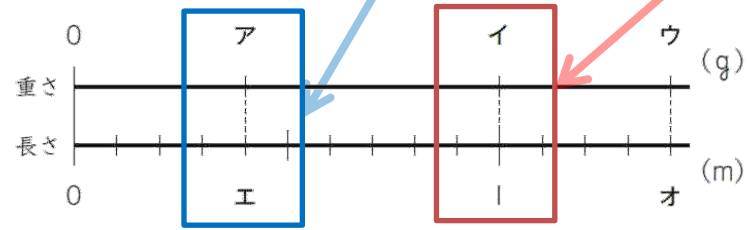
ポイント2 友達が図をかきながら説明するのを聞いて、理解を深めることが大切(聞き手を育てる)

### 全国学力・学習状況調査 算数A問題より

- 1 0.4 mの重さが60gの針金があります。  
この針金について、次の問題に答えましょう。
- (2) 針金1 mの重さが何gになるかを考えます。



1 mの重さを□gとして、針金の長さ<sup>はりがね</sup>と重さの関係を下の図に表します。  
針金0.4 mの「0.4」、0.4 mの重さ60gの「60」、1 mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。  
ア から オ までの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましょう。



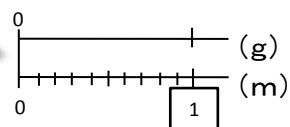
小数の除法の問題場面において、二つの数量の関係を数直線に表すことができるかどうかを見る問題です。

子供たちが自分の力で図をかき、問題を解くために使うことができるようになるためには、日々の授業でどのような指導が必要でしょうか？

### ポイント1 数直線と目盛りを入れた図を用意し、発表者が図をかきながら説明できるようにする。

図をかきながら説明してください。  
まず、どこにどんな数字が入りますか？

教師が準備した図



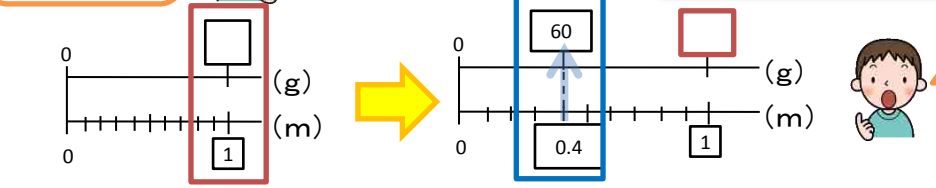
1 mあたりの重さ□gを1と見ます。



0.4 mの重さが60gです。



◇何を1と見ているか？ ◇0.4や60をこの図のどこにかけばよいのか？等、説明を聞く視点を聞き手に与えることが理解を深めることにつながります。



この図から、□gを1と見たときの0.4にあたる重さが60gであることが分かります。

### ポイント2 図の中の数字の意味について改めて聞き手に問う

◇Aさん(発表者)は、何を1と見たのですか？  
◇60と0.4は何を表していますか？  
◇この図から分かることをAさん(発表者)と同じように言えますか？



例えば「Aさん(発表者)の言ったことを言えますか？」と数人に聞いた後、ペアやグループで自分の言葉で言えるか確認(全員アウトプット)することで聞き手も主役となることができます。

☆全員アウトプットすることで定着を図るために、指導事項を明確にして、導入をコンパクトにするなど授業後半に時間をかけることができるようタイムマネジメントすることも大切です。



「文字は読めているが、内容を読み取ることがむずかしい。」「行間を読み取る力が、身に付かない。」「計算はできるが、文章問題になると問われていることがわからない。」といった悩みを特別支援学級の先生方のみならず通常学級の先生方からも聞く場面が多くあります。では、文章に書かれている内容や行間に隠された想いを読み取ったり情景を想像したりする力を育てるためにはどうしたらよいのでしょうか。今回は、そのヒントとなる指導の手立て「読みの基本12項目」を御紹介します。

「読み取る力」が育つということは、単に文字が読めればよいということではない。

日常生活の様々な場面で出会う言葉や出来事について、頭を働かせて考えることが必要！

子供たち自身が主体的に物事を考えて  
行動することが「読み取る力」の基盤となります！

意識的な  
言葉かけ

実現する  
ために

意図的な  
環境設定



「読みの基本12項目」を日常生活場面で意識してみましょう！



道路工事を見て、「なぜ、こんなことをしているのだろうか？」「ガス管が破損したのかな？」と考える姿勢をもつこと

① 自分の**身辺の事柄**に意識を向ける。

「隣の家の人の名前を知っているか？」「学校の始業時刻を正確に知っているか？」等

② 常に**意味を考えて行動**する。

だれかの真似ではなく、何のためにしているのかを明確にすること  
「ぼくは〇〇したいからこうしているんだ」

「〇〇さんはこうしたけれど、私だったらどうするかな？」と他人と自分の考えと比較すること

③ 物事の**理由や因果関係**を考える。

「なんのために」「何をどのようにしようとしているのか」を主体的に考えること

場面によって価値判断が変わることについて気付くこと  
「廊下は走ってはいけないが、玄関でお客さんを待たせているときに小走りで移動することもあるんだな。」

④ **比較**して物事を考える。

意味と結びつけて記憶すること  
『親』という漢字は、木の上に立って子供を見守る姿から作られているんだな

⑤ 自分が**今何をしているか**意識する。

行動する前に、「もし・・・したら」「例えば・・・になったら」「こう言ったら〇〇さんは、どういう気持ちになるだろう。」と考えること

⑥ 物事の**価値判断**を考える。

全体を意識し、部分を考え、確認すること  
「犬は利口な動物なので家の『ばん』をします。」の『ばん』は「番」なのか？「晩」なのか？

⑦ 物事を**記憶に留めておく**。

⑧ 先を**予測**して行動する。

⑨ 物事の全体を見聞きし、**全体と部分との関係**で考える。

落とし物を見つけて「ここに、こんな目印があるから、私のものです。」と常に根拠(理由)をもつこと

⑩ **自分と他人との関係**で物事を考える。

「一緒に帰る友達が待っていてくれるから、係の仕事を早く終わらせよう！」と意識できること

⑪ **根拠をもって**物事を考える。

⑫ 読んで**考えたり、行動に移したり**する。

「読んで行動に移した時にほめられた！」という経験が読む意欲につながる！



＜参考＞ 国語科教科書指導書 雙学校小学部1年用～6年用 文部省

日常生活において、周囲の人々との関係の中で諸々の機微が理解できないということは、文章の読み取りに際しても人と人との関係や、登場人物の心情の読み取り等も困難になることにつながります。日常生活の様々な場面で、上記の「読みの基本12項目」を意識した言葉かけをしたり、環境設定の工夫をしたりすることが、「読み取る力」の基盤形成につながると考えます。ぜひ、実践してみてください。